

稲・大豆作情報 (NO. 5)

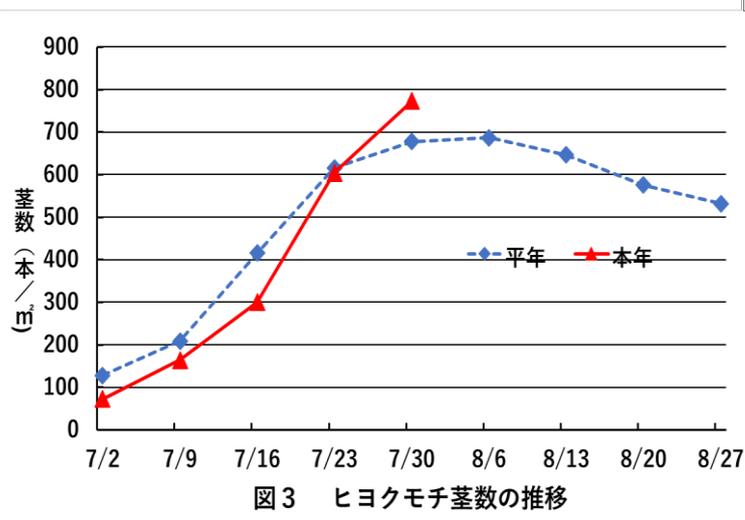
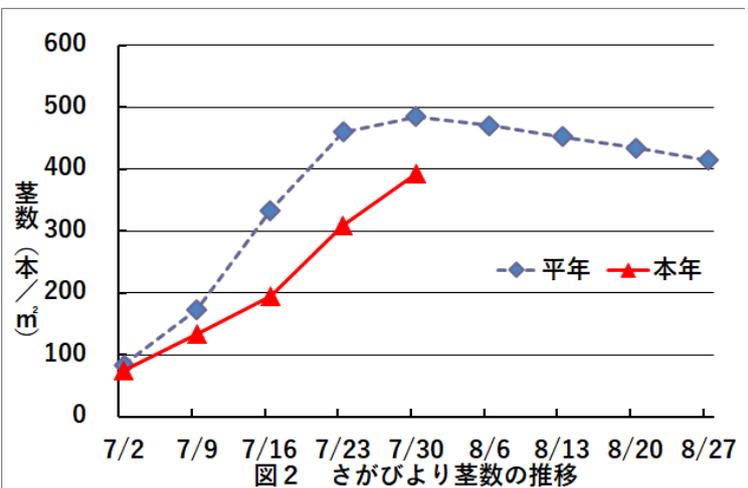
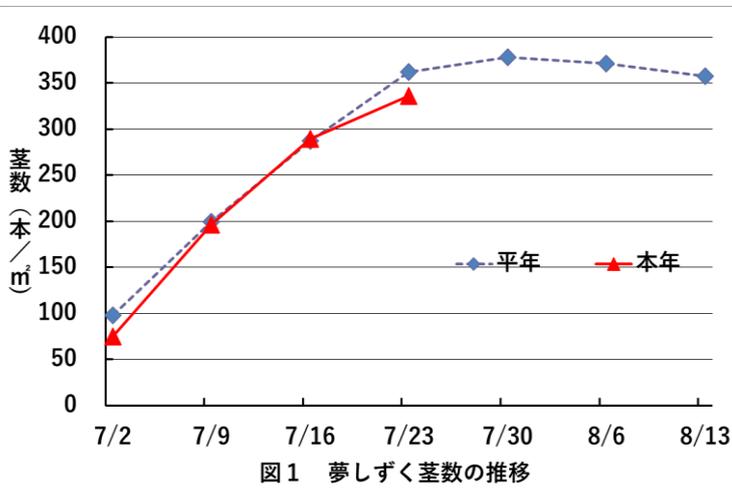
1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月31日現在)

品種 場所	移植日 栽植株数	年次	現在の生育状況				概況
			草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本年	78.2	361	12.3	35.8	7月5～6半旬は、気温はやや高く(平年より+2.5℃)、降水量はかなり少なく(平年比1%)、多照(平年比139%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は低い 茎数:「夢しずく」、「さがびより」ははやや少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 葉齢:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「さがびより」はやや遅れている。 葉色:「夢しずく」は平年より淡く、「さがびより」はやや淡く、「ヒヨクモチ」は濃い。
		平年	77.4	371	11.5	39.7	
		平年比	(101)	(96)	(+0.8)	(-3.9)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/m ²	本年	58.7	393	11.1	38.4	
		平年	67.3	459	11.8	40.0	
		平年比	(87)	(86)	(-0.7)	(-1.6)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/m ²	本年	56.1	773	12.5	43.5	
		平年	57.1	678	11.9	39.9	
		平年比	(98)	(114)	(+0.6)	(+3.6)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています



◆農業試験研究センター米づくり情報5号 7月30日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(7月30日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	74.3	342	11.6	40.1	[気象] 7月23日～29日まで ◆平均気温…平年より2.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比151%) ◆降水量…少ない(平年比0%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」でやや高い、「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で少なく、「ヒヨクモチ」が多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」で平年並み、「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。 ◆葉色 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」でやや濃く、「ヒヨクモチ」で濃い。
		平年	72.5	420	11.5	39.1	
		平年比(差)	102	81	+0.1	+1.0	
	ヒノヒカリ	本年	71.6	496	11.9	41.5	
		平年	66.4	546	11.5	40.0	
		平年比(差)	108	91	+0.4	+1.5	
6月20日	さがびより	本年	69.8	478	11.5	40.9	
		平年	63.3	535	11.6	39.9	
		平年比(差)	110	89	-0.1	+1.0	
	ヒヨクモチ	本年	64.6	887	12.3	42.8	
		平年	58.2	824	12.1	40.7	
		平年比(差)	111	108	+0.2	+2.1	
留意点	○「夢しずく」は7月28日(平年並み)に幼穂形成期を迎えており、穂肥診断に基づき追肥を適正に施用する。 ○中干しが終わった圃場については、今後は間断灌水を行う。 ○病気や害虫の発生に注意する。農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、“田まわり”を行的確な防除を行う。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稻における今後の管理

○水管理 ～ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ～

「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬～6月上旬移植)は、穂ばらみ期を、普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、幼穂形成期を迎えている。
- ・早植えの「夢しずく」は、水の要求度が高いため穂揃い期まで浅水状態で湛水を保つ。
- ・普通期の「夢しずく」は、穂ばらみ期まで「間断冠水(2日湛水3日落水)」を実施し、穂ばらみ期～穂揃い期まで浅水状態で湛水を保つ。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」は間もなく幼穂形成期を迎え、「さがびより」では、8月10日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、「中干し」を継続している圃場では早急に入水し、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。なお、移植が遅れた圃場などでも、遅くとも8月上旬までは中干しを終えるよう注意する。
- ・「ヒヨクモチ」は、8月中旬頃に幼穂形成期を迎えるので、湛水管理に移行する。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「夢しずく」

- ・普通期の「夢しずく」（6月中旬移植）では、幼穂形成期を迎えている。
- ・高温が続くと、光合成で生成した澱粉の殆どを呼吸で消費し、籾への澱粉の蓄積が不足します。施用が遅れないように表2の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。

表1. 「夢しずく」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量、()は山麓	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0 (3.0)	12.5(20.0)
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	2.0 (3.0)	12.5(20.0)
	3.5～3.8	38～39	15～14日	10-15mm	1.6	10.0
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6.0
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.6	10.0
	3.5～3.8	38～39	14～15日	10-15mm	1.0	6.0
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

「ヒノヒカリ」

- ・「ヒノヒカリ」は、8月5日頃に幼穂形成期を迎え、穂肥施用時期を迎える見込みです。
- ・施用時期が遅れないように表3の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。

★「ヒノヒカリ」の穂肥施用のポイント

- ①出穂前18～20日（幼穂の長さ3～5mm）に施用。
- ②草丈が80cm以上で葉色が濃い（SPAD値40以上）場合は施用しない。
- ③草丈が80cm以下で、葉色が薄い（SPAD値34以下）場合は、2日程度早める。（出穂前22～20日で幼穂長1～2mm）に施用。

表2. 「ヒノヒカリ」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群 落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない
80cm以上	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	1.5	10.0
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない

※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が淡く見えますので留意してください。

「さがびより」

- ・「さがびより」は、8月10日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。
- ・施用時期は、幼穂長5～10mmが基準。5mmに達したのを確認し施用する。
- ・本年は、平年に比べ草丈が低く、分けつ数も少ないため「さがびより」の穂肥診断基準は、下記のとおり県基準に準じた基準での診断とします。（平坦～山麓まで共通）

★「さがびより」の穂肥施用のポイント

- ①早くても幼穂5mmを確認してから施用する。
- ②出穂前18日（幼穂の長さ10mm）に施用。
- ②草丈が75cm以上で葉色が濃い（SPAD値37以上）場合は施用しない。
- ③草丈が75cm以下で、葉色が薄い（SPAD値33以下）場合は、2日程度早める。
（出穂前22～20日に施用）

表3. 「さがびより」穂肥診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.0
	3.8以上	39以上	施用しない			
75～80cm	3.0以下	36以下	18～20日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※葉色が濃い圃場や幼穂長が15mm以上になっている圃場は、穂肥は施用しない。

○病害虫情報（発生および防除）

- ・今後も高温が続く見込みであり、高温・少雨の条件下では害虫の発生が多くなるため、発生状況を確認し、適期防除を実施する。

① 【トビイロウンカ】

- ・ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23～、7/1～、7/10～）が確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測は、図1のとおり。

② 【コブノメイガ】

- ・県内のライトトラップで断続的に誘殺（6/23～、7/1～、7/12～）されている。
- ・一部の圃場では成虫が確認されており、今後発蛾最盛期となるため、発生状況に注意する。
- ・コブノメイガの発生予測は、図2のとおり。

- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。



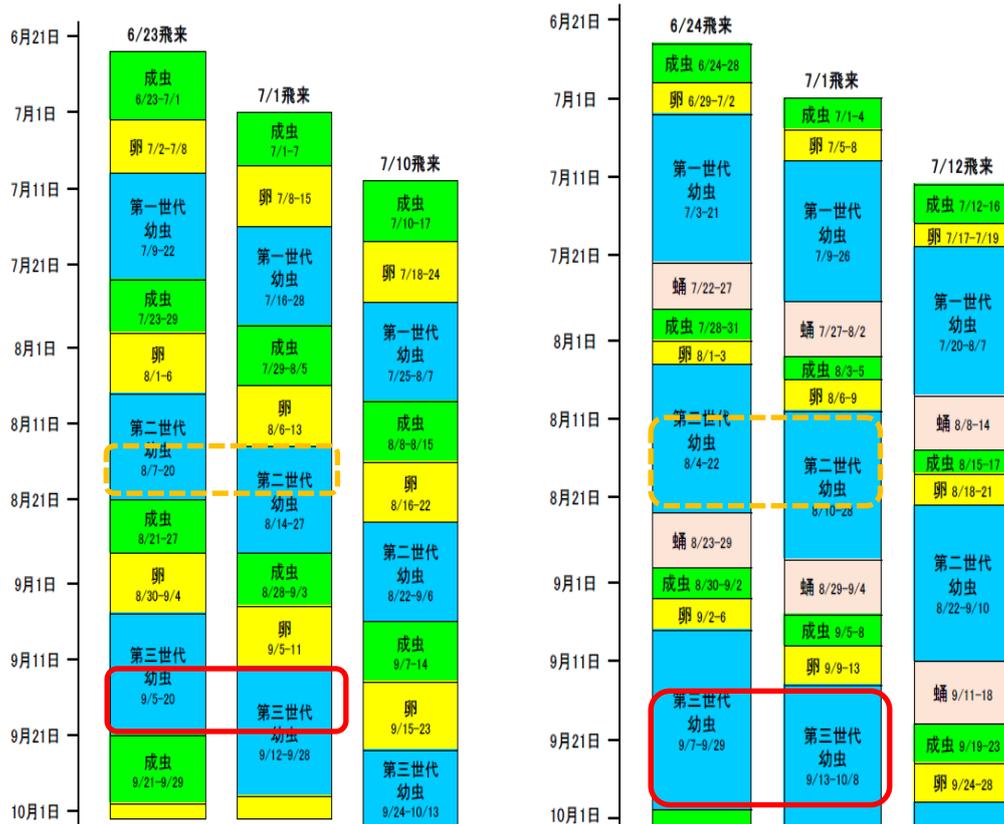


図1 トビイロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期
1回目 8/14~8/20
2回目 9/12~9/20

暫定防除時期
1回目 8/10~8/22
2回目 9/13~9/29

③ 【斑点米カメムシ】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、出穂 10 日前までに畦畔除草を行う。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期(目安)	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部 6月中旬移植夢しずく …8/7前後まで	◎多発生:「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除 ◎少発生:「乳熟期(出穂の約15日後)」1回防除

④ 【紋枯病】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展(垂直進展)する時期に防除を徹底する。(液剤、粉剤の場合は出穂 10~20 日前を目安とする)
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

3. 大豆における今後の管理

1) 大豆の生育状況

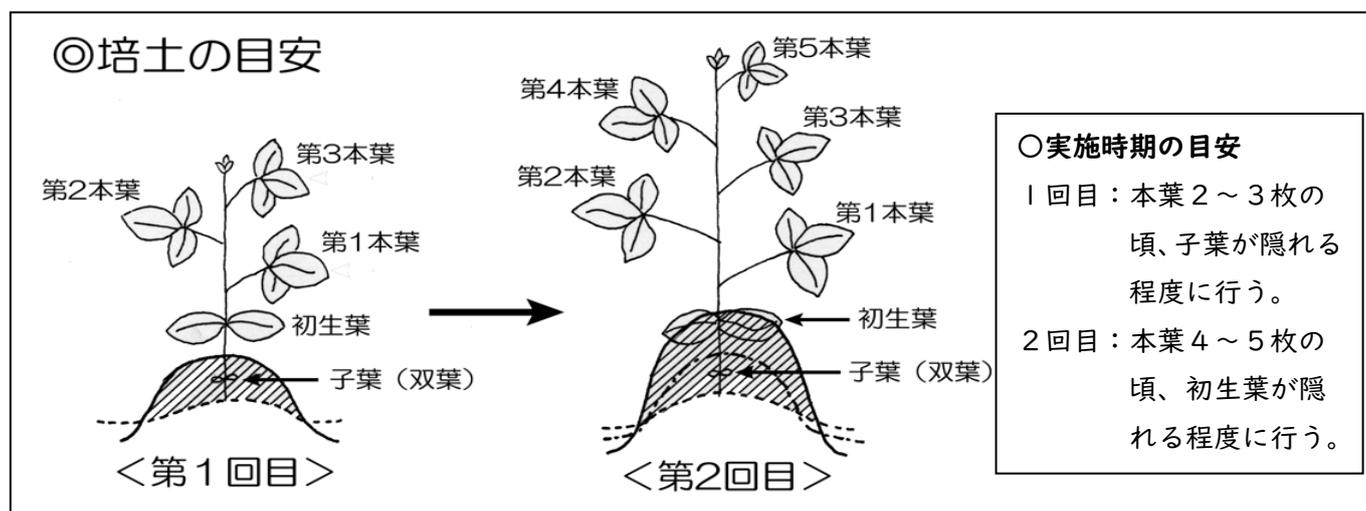
7月上旬頃に播種された圃場では、本葉3～4葉程度となっている。

7月下旬頃に播種された圃場では、初生葉～本葉の展開期を迎えている。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- ・7月上旬播種：すでに1回目の培土時期を迎えている。本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
その後、本葉が5枚開いたのを確認したら、2回目の培土を初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで行う。
- ・7月下旬播種：間もなく1回目の培土時期を迎える。本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。



※降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草防除を行いましょう。

○干ばつ対策について

1) 乾燥等で出芽が不十分な圃場での対応

- ・大豆を播種したものの、7日程度経過しても出芽しない場合、掘り返し種子の状態を早急に確認する。
 - ① 播種時と変わらない種子の状態であれば、うね間灌水（※注1）を実施する。
うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったら、すぐに落水し少なくとも翌朝には完全に落水させる。日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗し易い。
 - ② 一度、土中で出芽し乾燥（次ページ写真1、2参照）した場合、出芽しない可能性が高いことから、再播種の必要がある。再播種する圃場では、播種量を増やし、生育量の確保に努める。乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにし、耕起をやや深めに細かくする。播種後4日以内に降雨の見込みがない場合、種子が5 cm程度の下層（湿った土中）となるように播種し、播種後は鎮圧を行う。

2) 乾燥で大豆が萎れ始めている圃場での対応

- ・出芽後、降雨が見られず圃場の土壌が乾燥することにより、大豆の草冠が夜間も立っていたり、萎れ始めている場合には、夕方以降にうね間灌水（※注1）を行う。
- ・7月21日以降、降雨がなく土壌の乾燥条件が続いており、今後も週刊天気予報を見ると、晴天が続く予報のためコルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。

※注1：うね間かん水後は雑草の発生が多くなることから、早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

◆大豆生育期間中に必要な水量



写真1 出芽時に腐敗した大豆(出芽不能)

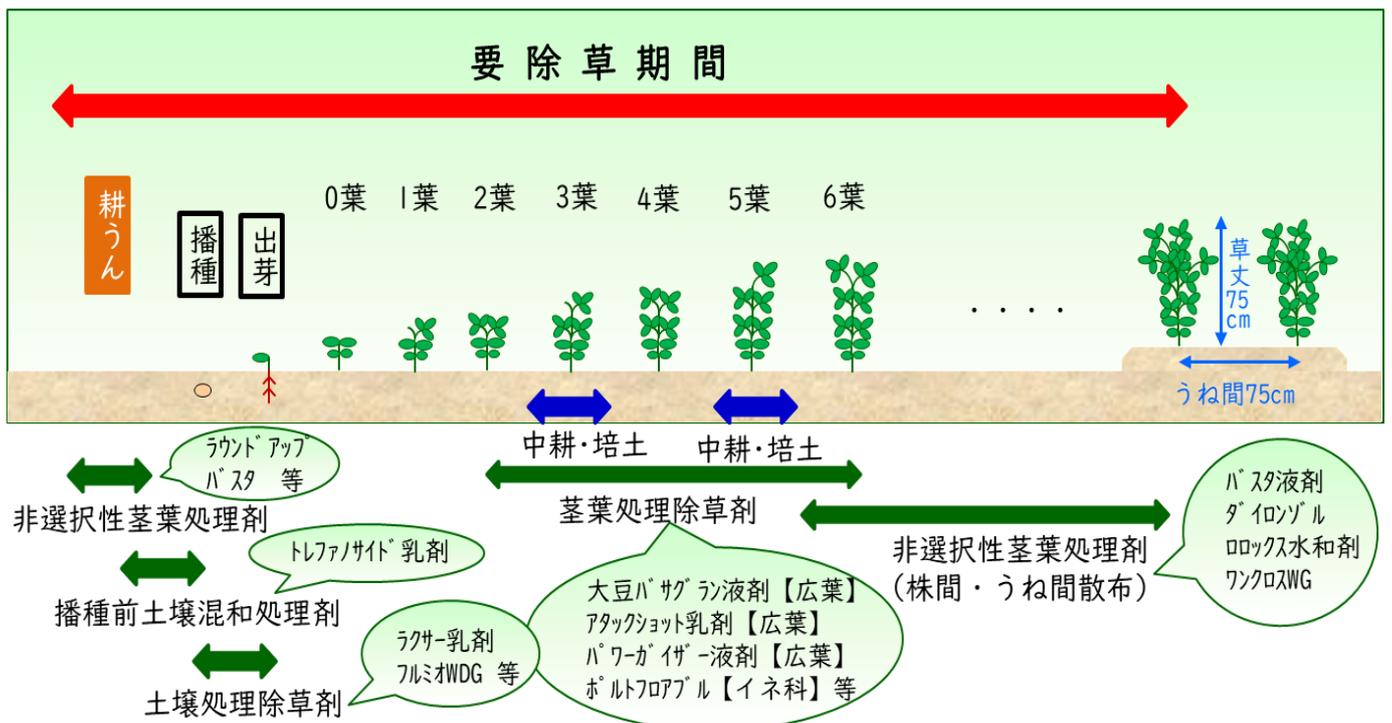


写真2 出芽時に乾燥した大豆(出芽不能)

○雑草防除

播種直後) 土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオ WGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稲へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。
 ※アサガオは、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。
 ※ツユクサは、「カロライナツユクサ」はアタックショット、大豆バサグラン液がある程度効果あり。「マルバツユクサ等」は、パワーガイザーがある程度効果あり。

■除草技術と実施時期の目安



令和6年産水稲・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

